



# 心の時代



それは憧れから始まりました。彼は治療をしていただいた歯医者さんに憧れて歯科医師を目指したいと考えたのです。しかし条件がありました。医学部、歯学部はご承知の通り学費等が通常学部とは違います。そこで彼は国立大学か、私立大学の特待生入試の受験を考えました。彼は特待生入試を選びました。特待生以外は他の大学、学部を選ぶことにしました。私は塾の前で歯医医院を営む吉野先生に歯科医の仕事を話してほしいということを頼みました。先生は忙しい中、快く引き受けくださいました。「私の仕事を紹介します」の始まりにもなりました。彼に出来る私からのエールでした。

彼は、受験生になると同時に塾内の掃除を始めました。たとえひとりであっても黙々と掃除をしました。たとえ掃除をしないで帰る塾生がいたとしても何も言いません。私は「掃除は強制をしてやってもらうものではない」と考えています。彼がそう思っていたかどうかはわかりませんが、とにかく無駄口を叩かないのが彼でした。掃除を終わった後、彼に化学をやろうかと思わず声をかけたりなりました。そして先輩たちも苦労した無機の暗記が夜中に始まりました。それも日本史の補習が終わってからでした。しかし彼は文句の一つも言わずに私を待っていてくれました。

私が掃除機のヘッドを外して挟まった髪の毛を取っているのを見て、やり方を請いました。「掃除ができる者は合格する」というのが私の持論ですが、それを地で言ったのが彼でした。どの講師も彼には受かってほしいという思いが高まってきました。試験の前日も当たり前のように掃除をして次日の受験に備えました。彼を見て机を拭いて帰る生徒が数名出てきました。

受験生には試験が終わったとは必ず塾に来て採点をしてもらうことを伝えています。できなかつた問題は追ってきます。その時、確実にわかって次に進む必要があります。そのために志学ゼミでは鉄人をはじめ入試問題を採点できる態勢を整えているのです。ですから志学ゼミでは2月の試験が終わるまでの通塾をしていただいている。まずは共通テストでしたが予想よりも得点は取れませんでした。歯学部の一般合格の予想ではA判定。しかし特待には届かない点数でした。しかし間違えた問題をしっかりやり直した姿が印象的でした。

彼は定期的な学習計画の進行を確認する面談でも人の話をよく聞きました。その進行を確認して何が出来てできなかつたかを振り返り、その原因を考えて何をしたらいいのかを話し合いました。そして次の面接までの学習スケジュール、チェック項目を決めるとそれを机に貼っていたそうです。

そして一般入試。一教科でも八割を切ると特待の合格は認められないという試験でした。試験後彼は塾に戻ってきました。鉄人をはじめスタッフが手分けをして採点をしました。配点が分かりませんでしたから正解率を出してみました。英語は2問間違えで93%、数学85%、しかし化学は75%でした。総合点では84%でしたが1教科でも80%以下ではダメなのです。何が出来なかつたかを見直し、次に生かすしかありません。感情的にならず淡々とやり直す姿は清々しいものを感じさせました。頭では難しいことはわかってはいましたが「掃除ができる者が落ちるわけがない」という思いが私の中で沸き起っていました。私は受験生によく「1秒前は過去」と言いますが、なかなか出来なかつた悔しさは割り切れるものではないことはわかっていますが、そう呼びかけるしかないので。間違えを直して次の試験に挑むことになりました。ネットでの発表を待つことになりました。そして次の特待試験に臨むことになりました。

その日、午後三時。スタッフみんな口には出しませんでしたが、みんなが意識をしていました。何とかならないものかなと。そんな中、中井川講師の電話が鳴りました。彼から特待合格の知らせでした。静かに拍手が起こり始めました。彼はおごることなく次の特待試験に向かっていました。

あとがきに代えて

今年もお陰様で「心の時代」を書き終えることが出来ました。ありがとうございます。

今年は改めて「志」の大切さを学んだ一年であったと思います。高三の夢を聴きながら、歯医者になりたい、教師になりたい、起業をしたい、税理士になりたい等、やりたいこと、なりたいことを聴くときの彼らの生き生きした表情はいいものだと感じました。

中三、高三生には夏期講習前に自分の将来像を考え「未来地図」を写真入りで考えて作ります。過去にうまくいった成功体験を入れ、将来の自分像を考え、今の自分が何をしなければならないのかを考える時間を持ちます。今年は三十三歳の自分へのメッセージを中三、高三に書いてもらうことにしました。三十三歳は男子が平均して家庭を持ち初めての子供がいる年齢であると言われています。女性は三十一歳。三十三歳への自分への手紙、その自分から今の自分へのメッセージを出してほしかったのです。私も勉強会を開催してそういったことも学びました。そんなことを考えていますと偶然「手紙～背景十五歳の君へ」(アンジェラ・アキ)という歌に出会いました。アンテナを立ててみるといろいろなことが入ってきます。

まさに「一生勉強」「一生青春」です。